



雪と風景

会期 / 2013 年 2 月 24 日 (日) ~ 6 月 16 日 (日)
休館日 / 月曜日 (祝日の場合は翌火曜休館)
開館時間 / 3 月まで 10:00 ~ 16:30 (入館は 16:00 まで)
4 月以降 10:00 ~ 17:00 (入館は 16:30 まで)



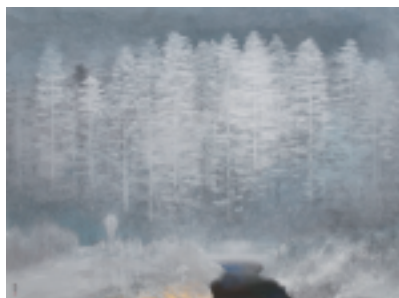
関口雄揮
記念美術館

雪と風景

表の作品：《寒山》（部分）年不明

※ 学芸員によるギャラリーツアー 随時受付

冬の北海道の風景を描いた作品によって二度の日展特選を受賞して以来、白と黒を基調とした「モノクローム」の風景は、関口の代名詞的な作風となりました。自然の中に潜む色彩を、無彩色によって塗りつぶしてゆく禁欲的とも言えるこの方法は、圧倒的な量感で降り積もる北国ならではの雪に靈感を得て、編み出されたものです。雪によって、見慣れた風景が瞬間に変貌する様子を目の当たりにした経験は、それほど強い印象を関口に与えたのです。本展では、雪によって大きく変貌した風景に焦点を当てて、作品を展示します。各作品に垣間見える色彩は、雪の抑圧に対する抵抗の表現であったのかもしれませんが。作品を通じて、雪と風景との関係を見直してみてください。



《霧氷》1994 年



《白い最果て》1992 年

◎第2展示室：森の四季

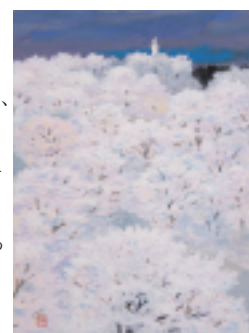
森を題材とした作品をご紹介します。大作においては秋と冬の風景を好んで描いた関口ですが、春や夏の風景を描いた作品も少なくありません。むしろそれらの作品からは、大作に見られない表現や視線の向け方を見て取ることができ、作風の幅広さや、ちょっとしたユーモアのある人柄さえ知ることができます。四季を通じて描かれた森の作品から、関口の様々な顔を発見してみてください。



《森の中》年不明

◎第3展示室：『トランヴェール』挿絵の原画

1994年4月から翌3月まで、関口は、JR東日本発行の車内誌『トランヴェール』に掲載された随筆に挿絵を提供していました。計12点の挿絵は、多彩な題材を取りあげ、季節感を盛り込みながらときにユーモラスに描かれ、さながら一編の物語絵巻のようです。掲載誌の展示も同時に行いますので、随筆とあわせてご覧ください。



「一目千本桜」挿絵 1994 年

◎関口雄揮記念美術館

日本画家・関口雄揮（せきぐちゆうき）の作品を所蔵、展示する美術館。年間3回の所蔵作品展の他、館外での特別展示やお茶会などのイベントも開催しています。

展示スケジュール

第1期：2月～6月
第2期：6月～10月
第3期：10月～2月

※展示スケジュールは変更となる場合があります
※各会期の間では、展示替え作業のため1週間程度休館させていただきます
※ご来館の際はホームページまたはチラシなどで会期をご確認ください



◎Cafe ボザール

館内併設のカフェ。明るく開放的な空間で、周囲の景色を楽しみながらご休憩いただけます。カフェのみでもご利用いただけますので、お気軽にお立ち寄りください。

Menu

コーヒー	¥500
ココア	¥600
抹茶	¥600
フルーツハーブティー	¥450
レモンスコーン	¥250
抹茶シフォンケーキ	¥400
アイス3種盛り	¥500
他	



◎ご利用案内

入場料金

	大人	大学 専門学校生	中高生	小学生	幼児
通常	¥800	¥600	¥400	¥200	無料
リピーター※1	¥600	¥400	¥200	¥100	無料
芸森※2 / 団体※3	¥700	¥500	¥300	¥100	無料

※1 当館入場券の半券をお持ちの方 ※2 札幌芸術の森美術館の観覧券をお持ちの方
※3 15名様以上の団体

敬老優待（要敬老手帳）¥600 障害者優待（要障害者手帳）通常料金の半額 前売り券 ¥600

アクセス

◎地下鉄・バスをご利用のお客様

地下鉄南北線「真駒内」駅バス2番乗り場より
中央バス乗車（約14分）「芸術の森入口」下車
真駒内方面へ徒歩1分

◎お車をご利用のお客様

札幌市街中心部より国道453号線を南下
支笏湖方面へ（約40分）
専用駐車場あり



関口雄揮記念美術館

〒005-0853 札幌市南区常盤3条1丁目（芸術の森入口）
TEL 011-593-5050 <http://www.sekiguchi-muse.jp/>